



八坂小通信

平成26年 6月30日

第637号

練馬区立八坂小学校

校長 稲葉 孝之

<http://www.yasaka-e.nerima-ty.ed.jp/>

ツバメの親子に学ぶ……啐啄同時

校長 稲葉 孝之

夏至を過ぎ、梅雨明けが待ち遠しい感じで雷鳴がとどろき、大粒の雨が木々の緑色を一層鮮やかにしてくれています。そんな中、個人面談で来校いただき、担任とお子様の理解を深める有意義な話し合いが進められたことと思います。ありがとうございました。

さて、先日いつも乗降している駅の駅舎に何気なく目をやると、階段のひさしの下にできた巣からツバメの子が飛び立ちました。狭い巣に五羽がひしめき合いながら、親ツバメからえさを奪い取るようにして育った子ツバメ。いよいよ巣立ちの時です。大きく羽ばたいているのが子ツバメたち。スマートに飛んでいるのが親ツバメ。空をあちこちぬって飛ぶ親ツバメの後をぎこちなく飛ぶ子ツバメの列。電線で羽を休めながら何度も同じ飛び方をして、飛び方を教えていました。



その時、「啐啄同時（そったくどうじ）」という言葉が浮かびました。ひな鳥が生まれる出る時に、内側からつついて卵の殻を割ることを「啐」といい、同時期に親鳥も外からつついて殻を破ることを「啄」といいます。親子の共同作業で殻が破れ、ひな鳥の誕生となるのです。野鳥は巣立ちの時にも「啐啄同時」を発揮するということです。親ツバメの一日のすべてが、ひたすら子ツバメに餌を運ぶこ

とに費やされてきました。五羽の子ツバメを育てる献身的な姿は、人間の親に匹敵します。

人間の一生にも、また子育てにも、「啐啄同時」の機会が何度かあると考えます。親の働きかけと子供の自発性が一致した時、教育効果があるわけですが、子育てにおいてはツバメの親子ほど明確にその時期が分かるというわけではありません。子供を躱ける時期や自立させる時期に悩みながら、「今だ！」と思って働きかけても子供の心に響かなかったり、子供が自分の力でやり遂げたいと思っても、心配する親が過干渉だったりということがあり、なかなかうまくいきません。

どのようにしたら「啐啄同時」の時期を見極めることができるのでしょうか。人間社会は複雑すぎて名案などというものはないのですが、子供を十分に理解することに尽きると思います。子供の持ち味や体験の有無、心のありさまなど、子供の心身の発達の様子をいかに理解するかで、「啐啄同時」の時期が見えてくると思います。親が躱けるタイミングと子供が納得するタイミングが合致した時、親子の心が通じ合い、子供は大きく成長するに違いありません。

ツバメの親子のかかわり合いを見守りながら多くのことを考えさせられました。これは単に親と子供の間だけのものではなく、世の中すべての人間関係においても同じことが言えると思います。この「啐啄同時」という意味深い言葉を少しでも意識して毎日を過ごせたらと思います。

「自分を信じて、もうひと踏ん張りしてみたら。」そんな何気ない一言が、相手に大きな力を与えることができるかもしれません。



